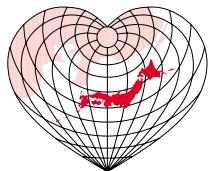


日本心臓財団

# HEART NEWS



ハートニュース

企画

日本循環器学会  
教育研修委員会

監修

山口 徹

東邦大学医学部附属大橋病院  
第3内科教授

発行

日本心臓財団

急性心筋梗塞治療の最前線



急性心筋梗塞は、心臓に栄養と酸素を補給している冠動脈が急に詰まり、血流がその先に流れないことがあります。心臓の一部の筋肉が死んでしまって（壊死）病氣で死ぬこともあります。症状としては三〇分以上続く胸痛です。同じ胸痛でも狭心症の場合は五〇～五十五分くらいで、胸痛の持続時間が急性心筋梗塞の重要な目安になります。

心臓の筋肉には再生能力がないため、急性心筋梗塞の第一の治療は、詰まった冠動脈を再び開通させて（再灌流療法）壊死を最小限にとどめることになります。再開通は早ければ早い

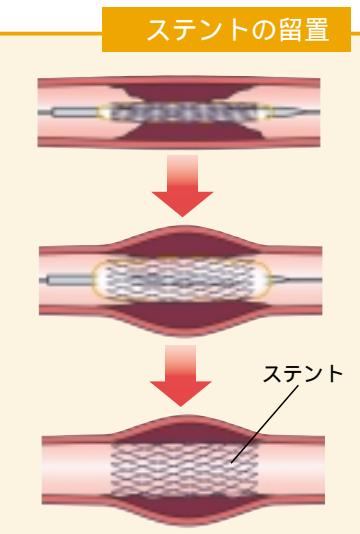
治療のゴールデンタイム（心臓のダメージを少なくすることができる時間）は六時間といわれています。それを過ぎても十二時間以内であれば、再開通することで効果があります。

WHOの調査では、急性心筋梗塞による死亡例は八〇%が二十四時間以内で、その三分の一は病院到着前です。ちなみに専門施設のある病院到着後の死亡率は五〇～一〇%です。

次に今行われている最新の治療法を紹介します。

## 最新の治療法

### 血栓溶解薬 + 風船療法 + ステント



日本心臓財団より

日本心臓財団は、わが国三大死因のうちの心臓病と脳卒中の制圧を目指して、一九七一年に発足いたしました。財団は、研究に対する助成や予防啓発、また世界心臓血管連合加盟団体としての諸活動を通じて、心臓血管病の予防・制圧に努めております。当財団は皆様のご寄付により運営をされています。どうぞ皆様のご協力をお願い申しあげます。

ホームページ・アドレス <http://www.jhf.or.jp/>  
本部  
〒113-0018 東京都文京区本郷二丁目一  
日本心臓財団

## 治療のゴールデンタイムは6時間

# 6時間

治療法には、詰まった血栓を血栓溶解薬（TPAなど）で溶かす方法と、血管内に細い管（カテーテル）を入れて詰まった部位を風船（バルーン）でふくらませる「風船療法」（PTCAなど）があります。

治療法には、詰まった血栓を血栓溶解薬（TPAなど）で溶かす方法と、血管内に細い管（カテーテル）を入れて詰まった部位を風船（バルーン）でふくらませる「風船療法」（PTCAなど）があります。この治療法は簡便ですが、出血性疾患、たとえば胃潰瘍などがあると、止血していた血栓まで溶かすため、使用には十分な配慮が必要があります。風船療法の再開通成功率は約九十五%と高いのですが、心臓カテーテル室を持つ施設でなければ行つことができません。

急性心筋梗塞で循環器専門医のいる病院に搬送された患者さんは、到着すると直ちに血栓溶解薬を静脈注射して、心臓カテーテル室に送られ、溶けている血管造影を行います。閉塞部位がみつかると、そこを風船療法で再開通した後、その部位にステントという不锈钢の線スチールの金網の筒のような補強具を留置します。風船療法だけでは再狭窄することが多いため、

今日広く行われるようになつた方法です。ステントは、体内から放射線を照射して再狭窄を防ぐ研究も、また、ステントを体内に吸収される物質でつくり、体内にステントを残さない研究も行われています。

今日広く行われるようになつた方法です。ステントは、体内から放射線を照射して再狭窄を防ぐ研究も、また、ステントを体内に吸収される物質でつくり、体内にステントを残さない研究も行われています。

## 再狭窄予防研究の最前線

